

# 漁海況情報

平成22年6月29日 第9号(通巻442号)

山口県水産研究センター 外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎2861-3

TEL:0837-26-0711 FAX:0837-26-1042 Mail:a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

## 【マアジの漁況予報】

7～10月における県内のマアジの漁獲量は、1歳魚(全長17～22cm)を主体に、前年・平年(過去5ヶ年平均)並みと予想されます。予測の根拠は以下のとおりです。

### 予測の根拠

○良い △ふつう ×悪い

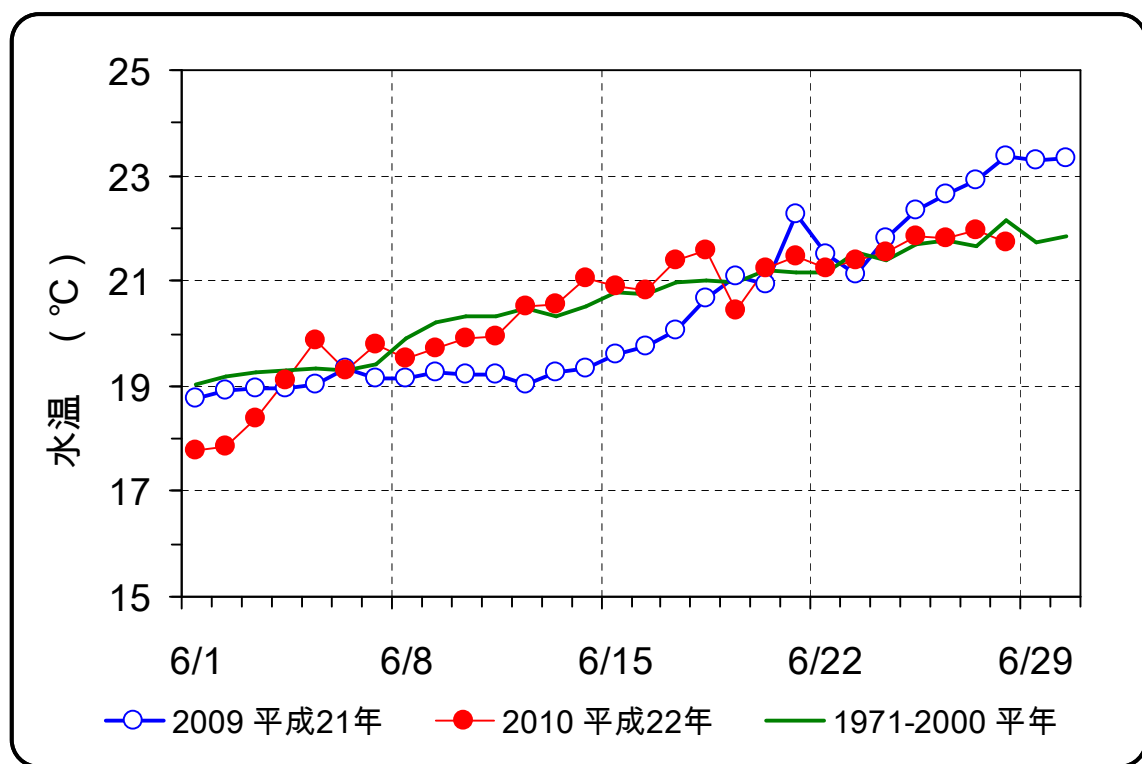
	検討内容	結果	評価	備考
①	対馬暖流系群マアジ長期漁況予報(H22年4～9月期予報)	来遊量は前年並み。沖合域では前年並み、沿岸域では前年、平年並み。	△	西海区水産研究所がH22年3月に公表
②	平成22年日本海マアジ長期漁況予報(H22年5～9月期予報)	日本海西部におけるマアジの来遊量は前年並み。	△	日本海区水産研究所がH22年5月に公表
③	対馬暖流系群マアジ資源評価	中位、減少傾向	△×	西海区水産研究所がH21年8月に公表
④	マアジ新規加入量調査	前年(H21年)の新規加入量調査の値が高かったことから、まき網の漁獲主体となる1歳魚の加入が良好と考えられる。	○	西海区水産研究所及び当センターがH21年5,6月に実施
⑤	山口県の中型まき網によるマアジ漁獲量の長期変動傾向	1999年(H11年)以降は2,000～3,000トンで推移している。	△	農林水産統計値
⑥	中型まき網の初漁期(3～5月)の漁獲量と年間漁獲量の関係	初漁期の漁獲量は526トンで過去10年の平均値を下回った。また両者の関係式から年間漁獲量を推定すると約2,400トンとなった。	×	中型まき網の初漁期と年間漁獲量との間に正の相関が認められる。

## 【萩-見島フェリー観測の表層水温】

萩-見島フェリーの観測による萩沖の表層水温は、6月4日以降、ほぼ平年並みで推移しています（下図）。

本年6月22日以降は、21.2～22.0℃の範囲で変動しており、昇温の度合いが小さい状態が続いています。前年（平成21年）は、6月23日頃から昇温傾向が顕著になっており、本年の昇温時期は、前年よりも遅い傾向にあります。

6月28日の表層水温は21.7℃で、前年と比べ1.6℃低め、平年と比べ0.4℃低めとなっています。



萩 NNW15 マイル沖の表層水温（6月1日以降）

## 【今後の表層水温の見通し】

向こう1ヶ月の表層水温は、①福岡管区気象台発表（6月25日発表）の九州北部地方1ヶ月予報、②日本海海況予測システム（JADE）の7月20日の水温予測図、③本年の表層水温の変動傾向を基に予測すると、ほぼ平年並みに推移するものと考えられます。

### 予測の根拠

#### ①福岡管区気象台の九州北部地方の1ヶ月予報

気温：高い確率50%、平年並み40%

降水量：多い確率30%、平年並み40%

#### ②日本海海況予測システムによる7月20日の水温予測図（右図）

図によると、山口沖は平年並み（24～25℃）の分布となる。

#### ③萩沖水温の変動傾向

昇温は前年より遅れているものの、水温は概ね平年並みで推移している。

